



親元就農

園芸

石川県かほく市

山森 政周 さん (石川県出身)

就農のきっかけ

就農前のこと

- 山森さんはご実家が農業を営んでいるとのことですが、ご自身の就農に至る経緯を教えてください。

両親は理髪店を営む兼業農家でした。ぶどう栽培は祖父が2代目として経営しており、それを継承する形で、私が3代目になりました。幼少期から農業に触れており、収穫期は手伝いもしていたとはいえ、将来的に継承する意思があったわけではありません。

就農前はサラリーマンとして働いていました。ただ、このままずっとサラリーマンとして働き続けるよりも、自分で何かしたいと思ったときに、馴染みのある農業に行き着きました。年齢的に祖父がぶどう栽培を続けていくのには限界がありましたし、このまま廃業するのも面白くないので、私が継承することにしました。

- 就農にあたって研修は受けられたのでしょうか。

いしかわ農業総合支援機構が主催する「いしかわ耕稼塾」の本科コースで研修を受けました。研修を受けて良かったのは、経営計画の立て方などソフト面を勉強できたことと、ネットだけでは分からない情報をリアルに学べたことです。同期と横のつながりができ、今でも交流があります。年齢も作目も異なるので、刺激になっていますね。

就農前後の行動

研修修了後、親元就農（経営継承）へ

- 就農に際して、大変だったことはありますか。

農地と機械だけでなく、地域の人間関係も祖父からすんなり受け継ぐことができたので、継承時に大変だったことは特にありません。

- 就農前後で、農業に対するイメージのギャップはありましたか。

昔から農業に触れていたため、イメージギャップはありませんでした。ただ、農作物を作る技術を磨くのは勿論重要なのですが、結局、生活していけなかったら成り立たないということを研修で学びました。意欲があっても、良い物を作っているだけでは駄目で、お金の感覚を養うことが経営面で一番大事だと分かりました。



親元就農(経営継承)後のこと

- 就農1年目のことを教えてください。

作業のスケジュールを組むのに苦労しました。数か所あるほ場の作業時期が重ならないように工夫する必要があり、作業の効率化を図るのに時間がかかりました。また、天候を読んで作業するには長年の勤が大事になってくるのですが、最初は分からないので、先輩農業者の作業のタイミングを観察しながら実践しました。

技術的に分からないことがあれば、先輩農業者や行政の方に質問していました。そういった環境が整っていたことも、ありがたかったですね。

- 現在の経営状況について教えてください。

現在、就農3年目になります。作目はぶどうで、テラウェアが9割を占めます。面積は合計で1.2ha(成木70a、苗木50a)あります。ほ場を1つ増やしたので、作業のタイミングが重なったり、今まで3人で作業していた処理を1人でやることになったり、色々大変でした。特に、ジベレリン(※)処理がその年のぶどうの出来を大きく左右するので、慎重かつ迅速に行いました。

※ジベレリンは植物ホルモンのひとつであり、無核化(種なし化)、着果促進や果実肥大、成熟促進などの効果があります。

就農1,2年目は梅雨にあまり雨が降らず、ぶどうの生育には好条件でしたが、今年は天候に左右されています。雨が続くとぶどうが割れるのですが、基準の糖度までもっていきたいので、どこで生育を止めるかなど非常に勉強になりました。



- 経営が順調な秘訣は何かありますか。

自分主体で経営できていることが、うまくいっている一番の要因だと思いますね。継承したものの、親などとの意見のすれ違いで、なかなか自分の思うように進めていけないという話も聞いたことはあります。ありがたいことに、家族や周りの人も積極的に手伝ってくれていてとても助かっています。

- 今後の展望をお聞かせください。

将来的には従業員を雇用し農業法人として経営して行くことを目標としていますが、経営者としての責任や財政面を考慮した時に、まだ厳しい部分があります。ぶどうは収穫期が年に1回しかないので、それだけで従業員の給料を確保するためには、私自身の技術力や経営基盤を固める必要があると考えています。雇用するより前に、私自身でどこまでできるのかというラインも見極めたいですね。

また、農業体験を希望する方から連絡をいただくこともあるので、そういった方々が農業に触れる機会を提供していきたいです。



就農希望者へのメッセージ

- 就農希望者へのメッセージやアドバイスをお願いします。

こだわりを強く持った方が良いです。「農業で稼ぐ」という想いだけで就農しても続かないと思います。特に就農1~3年目は、想定していた収入の7割程度にしかならないので、長い目で見えて続けられる人が向いていると思います。私のこだわりは、「日本一おいしいテラウェアを作ること」と「農業で地元を盛り上げること」です。

お金のことだけを目標に始めるのはお薦めできません。稼ぎたければ農業でなくても良いはずですし、時給に換算すると現実には厳しいことが分かりますよ。だから就農してもすぐに辞めてしまう人が多いのだと思います。「自分しか作れないこだわりの野菜を届けたい」とか、「農業を通して地元に貢献したい」とか、自分の基準や目標を持って始めること、そして農業を始めたきっかけを忘れずに、続けることが大事かと思いますね。

作業がきついと思うこともありますが、私自身は苦になりません。成果がすぐに現れるものでもないのに、想像したり試行錯誤しながら実践することになりますが、(成功でも失敗でも)それが結果として現れるのが農業の魅力だと思います。



令和5年7月 経営支援課就農促進班取材

(写真提供:山森政周様)